

葉山町教育委員会 11月定例会会議録

- 1 開会年月日 令和5年11月15日(水)
- 2 開会場所 保育園・教育総合センター 会議室
- 3 出席委員 教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
委員 鈴木伸久
委員 下位勇一
委員 清水衣里
- 4 出席職員 教育総務課長 虫賀和弘
学校教育課長兼教育研究所長 瀧名恵美子
生涯学習課長 守谷悦輝
- 5 議長 教育長 稲垣一郎
- 6 書記 教育総務課長 虫賀和弘
- 7 開会 午前10時00分
- 8 閉会 午前11時35分
- 9 次第 日程第1 前回会議録について(葉山町教育委員会10月定例会会議録)
日程第2 教育長の報告事項について
日程第3 教育委員活動報告
・学校視察について
日程第4 議案第15号 学校施設あり方検討委員会委員の委嘱について
日程第5 議案第16号 葉山町学校運営協議会委員の解職について
日程第6 議案第17号 葉山町学校運営協議会委員の委嘱について
日程第7 議案第18号 令和5年度葉山町教育予算(一般会計補正予算(第7号))(案)について
日程第8 各課からの報告
① 生涯学習課
・葉山町地域学校協働活動推進員の解職及び委嘱について
日程第9 その他

(開会宣言)

教 育 長) ただいまから葉山町教育委員会11月定例会を開会いたします。

本会議につきまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定による定足数に達しておりますので、有効に成立しております。

時刻は10時ちょうどでございます。

今日は傍聴人の方いらっしゃいません。

本日の日程といたしましては、次第のとおりです。

会議次第についてご異議ございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ありがとうございます。ご異議なしと認めます。

なお、会議録作成上、質疑の際は挙手をしていただき、委員の名前を指名した後、発言してください。また、質疑をされるときは何についての質疑か、明確にお願いいたします。

ここで1件ご報告させていただきます。9月6日に開催されました葉山町議会第3回定例会において、議会の同意を得て11月1日付で下位委員が再任され、同日任命式が執り行われました。任期は令和9年10月31日までの4年間となります。それでは下位委員、一言ご挨拶をお願い申し上げます。

下位委員) 下位でございます。11月1日に町長から辞令を頂きまして、この日より4年間務めさせていただくことになりました。ICTが得意な分野なのでそこに注力しながらと思っておりますが、ICTだけではなく、全体を見ながら皆さんと協力してやっていければなと思っております。どうぞ4年間、よろしくお願いいたします。

教育長) どうもありがとうございました。

それでは、日程に入らせていただきます。

(前回会議録について)

教育長) 日程第1「前回会議録について」を議題とします。

本日は教育総務課長をお願いすることになります。教育総務課長、お願いいたします。

教育総務課長) それでは、10月定例会につきましてご報告いたします。各委員の皆様には会議録を配付させていただいておりますので、内容については省略させていただきます。

なお、10月定例会は教育長及び教育委員の出席が5名、開会午前10時、閉会午前11時37分でございます。

以上です。

教育長) ありがとうございます。ご意見、ご異議はございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。以上、前回会議録については原案のとおり承認されました。

(教育長の報告事項について)

教 育 長) 日程第2「教育長の報告事項について」を議題といたします。

報告事項、5件でございますかね。順番にお話をさせていただきます。

まず、10月26日(木曜日)に、委員の方々とともに南郷中学校の視察をさせていただきました。後ほどまた委員の方々からのご感想等を頂きますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

まず私のほうから話をさせていただきますが、南郷中全体の授業の印象から申し上げますと、3年前に私が赴任してからその比較してみると、非常に生徒の自主的な取組が進んでいるというような感触を受けています。つまり、生徒が楽しみなら授業に参加していると思われる授業が非常に多くなったと言えるのではないかと感じております。私からは一つ一つの個別授業については申し上げることはいたしません、恐らくは、教員がこれまでの知識注入型のみの授業から思考力・判断力・表現力の育成を念頭に置きながら、個々に授業改善に取り組んできた結果が生徒の授業に向かう表情に出始めているのではないかと感じる所です。

例えば、これは南郷中のある意味では特徴なのかもしれませんが、昔からいらっしゃるALTの先生がいらっしゃいますけれども、ALTの先生のネイティブの授業、昔からよかったわけですが、過去に比べても生徒たちの取組が非常に前向きで、アウトプットをしっかりとしているような状況も見ることができました。それに併せてですけれども、英語の教員も非常に前向きに生徒たちに発言させるという形の取組をされているところが見えました。令和7年度から分離型の小中一貫校の中学校となる南郷中学校が、長柄小学校とともにスクールポリシーとして、キーワードは「考える」ということですのでけれども、考えるということを中心にして生徒に語ってくれていることも、今回の授業への主体的な取組につながっているのではないかと感じられます。非常にある意味ではいい取組だと感じました。後ほど各委員のところでお話を頂ければと思ひます。

先にこちらのほうを進めさせていただきます。続きまして、10月31日(火曜日)には、大和市のシリウスという建物で市町村教育長連合会総会が開催されましたので、報告させていただきます。年に1回の全市町村が一堂に会しての総会ですので、前年度・次年度の活動計画や予算が諮られたところです。また、懸案である今年度から公立高校の受験に際してのウェブ出願について話題とされ、私から今後の県からの説明会のスケジュールの確認と、受験生徒はメールアドレスの送受信ができることが今回のウェブ出願においては必須であることを全員で確認させていただきました。葉山町においても、校長会でも周知いたしました、1月

4日から3月1日の合格発表日までは、現在一人一人がメールアドレス個人は持っているんですけども、送受信を許可していません。これは様々な要因がありますので自由に送受信させていないところがありますが、これを一定の期間のみ、3月1日まで、中3のみに限って開放させるということで確認しているところです。

さらに、情報提供で、新聞でも少し話題になりましたが、川崎市さんのほうから情報提供がございました。内容は、学校給食で使用した豚肉を加工業者が外国産を国内産と偽って、産地偽装を納入した件について新聞報道があったことを覚えていられると思います。これについて、川崎市さんのほうから説明がございました。実際、何年もという話もありましたが、葉山についてはご心配に及ぶところではないということです。納品業者は明確に特定されていますので、ご安心いただければということです。

続きまして、11月2日には校長会議及び学校改革の戦略会議を開催しましたので、報告させていただきます。

一番最初に、校長会議冒頭でお話をした件は、お手元にペーパーを配らせていただきましたが、前にもお話ししたとおり、文科省が昨年度の不登校・いじめについての総数を発表したことに際して、不登校・いじめ緊急対策パッケージについて、オープンにいたしました。これについて、解説を校長のほうにさせていただいております。葉山においても、不登校については残念ながら増加傾向であるというところを考えると、現在学校で取り組んでもらっているリソースルームなどの緩やかな学習の在り方も、これからは必須条件になっていくということをお話をしました。ペーパーの中では、左のところに不登校とあり、右側にいじめと書いてありますが、不登校の四角の中身を見ていただきますと、C O C O L O プランという文科の物の考え方の内容が下の丸で書かれています。この中で、1つは校内教育支援センタースペシャルサポートルーム、これが葉山で言うリソースルーム等に値するような形になっていこうかと思えます。未設置校は設置を促進しろということがございます。

さらに言うと、その下の教育支援センターのI C T環境を整備してくださいということで、リソースルームにP Cでしっかりと学習ができるようにという形をぜひ進めなさいという話をしているところです。現在、該当の教室については全ての教室でW i - F i が設置されているわけではないと思いますので、これについては現在、予算の査定もしていますので、できるだけ町と相談しながら、早めにW i - F i 等も設置ができるような形で現在動いているところだと思っております。

さらに、いじめの関係につきましてもですね、非常に増えているというところで、文科としては統一的な、右側になります。1つ目の丸ですが、アプリ等による心の観察、これができるようなものを開発して配置したいというような話があったりしています。それから、子どものSOSの相談窓口を集約するというような話、1人1台の端末を活用しますよという話もさせていただきました。

それから、既に葉山のほうも神奈川県の方から配備がされていますが、いわゆるSSW、スクールカウンセラーさらにスクールソーシャルワーカーを重点配備させていただくということが話されていますので、葉山においても、スクールカウンセラーそれからSSW、ともに本当にフル稼働の状態であるのが実態でございます。そういう中で、この2つの項目、何としても、葉山の中でも、もっと言うと日本全体の中でも、これをそうでない形にしていきたいと文科の方から話されています。

一方、これも新聞報道でご承知かもしれませんが、滋賀県のとある市長さんが、フリースクールについての見解を話されたところがあります。文科省自体が、ああいうフリースクールを認可することで、ますます学校に行かなくなるのではないかという懸念の話をされました。ただ、文科省のそもそもの物の考え方は、フリースクールに行きなさいと言っているわけではもともとないんですね。そうではなくて、子どもたちが学校に行けないという現状があるならば、学校以外の場というものも、教育機関としての位置づけを明確にしていきたいと。ただし、そこからさらに学校に戻ってこれるような連携をしっかりと図ってくださいねという趣旨で文科は話をしていますので、そういう意味では滋賀県の市長さんがおっしゃったところは、少しもしかすると考え方が違う意味で発信されてしまって、恐らく発言された市長さんもお困りになっているんじゃないかと思ったりもします。そんなことがありますので、これについて一番最初に各校長たちに話をさせていただきました。

続いて、小中一貫校開設までの今後のスケジュール、これについて長柄・南郷ブロック、それから葉山中学校ブロックの個別の考え方をしっかりと整理してほしいというお話を差し上げています。

それから、これも毎回毎回校長たちには話しておりますが、ちょうど冬になってまいりますので、次年度のカリキュラム、それから行事について、特に従前から依頼しています年度末・年度始めの緩やかな教員の余白、これを設けることについてしっかりと進めてほしいことを再度依頼しております。

さらに、先ほど申し上げた本年度公立高等学校のウェブ受験、ウェブ出願についての今後のスケジュールと段取りについて両中学校校長に依頼してあります。

さらに、働き方改革の一層の推進、それから今後の人事異動関係の確認をさせていただきます。昨今、働き方改革は、数字ばかりがどちらかというところばかりが、どちらかというところばかりが、5時に帰りなさいというところばかりが、どちらかというところばかりが、どろろとクローズアップされています。一方、5時に帰れただけですと、教育の内容論が薄くなっていくという一定の批判もございまして、本来の意味での働き方改革というのは何であるのかということもしっかりと考えていく必要があるだろうと。いろいろな形の中で、例えば1人1台のパソコンが配備された理由であったりとか、授業改革をなぜ進めているのかとか、それから、なぜ先生たちの余白をつかってほしいと言っているのかとか、そういうことを全て整理した上での働き方改革の推進だということをもう一度考えてもらいたいという趣旨でございます。

それから、働き方改革と授業改善のために、文科省が求めている小学校の総授業数の最低時数までに多くの授業数が現在ある場合は、必ず落とさなさいねという指示が出ています。これも今言ったとおりで、いろいろな形での工夫がさらにできると思っています。総授業数だけではなくて、例えば現在、名古屋市のほうで、ある意味で施策として行われている学校では、学校に登校するのが例えば門が開いて学校に入ってくるのが8時10分だとします。ところが、学校の始業時間、つまり教員が働く時間は8時半からになっているという場合があるわけです。先生たち、8時10分にはもう学校に来て、子どもたちが入のを待っている状況になっています。となるならば、例えば名古屋がやっている一つの例とすると、8時10分からもう1時間目相当に換算してしまう。もっと言うならば、朝の打合せはやらない。じゃあ本当にやらないのかというと、放課後少しやれば、翌日やれば十分だろう。さらに言うと、必要な意味での伝達で済むものは、パソコンの中での連絡で十分済むのではないかとということも含めて、工夫はいくらでもできています。そんな中で、例えば生徒たちの帰る時間が少し毎日早くなっていく。例えば30分早くなっただけでも、先生たちにとっては毎日30分の余裕ができます。そういうことも含めて、さらに工夫してほしいということを申し上げているということでご理解いただければと思います。

最後に、これもお配りしたペーパーをご覧くださいと思いますが、裏表で2枚あると思います。これについて少しお話をしました。これは、未来戦略研究所の主幹をされている根本昌彦さんが、今後の教育について、他市町村で講演されたペーパーの全てではなく、肝になるところだけを校長先生方にお配りして、少しお話をしておきました。

1枚目見ていただくと、キーワードは「脱日本」と書いてあります。脱日本の内容は、日本型からの脱出であることと、日本社会からの脱出であるというところ

ろが今後の考え方であるということです。日本型というのは、もともとの工場型の教育だったりするところです。ここからは脱出しなければ駄目ということ。さらに言うならば、これから日本が置かれている立ち位置を考えていくと、教育してグローバル化していく子どもたちが育成されていくと、日本にいただけではなくて、海外で日本人としてしっかりと生きていくという方向性を示してやるのが、恐らく今の日本経済からいったときに重要だという考え方を示したものです。

めくっていただきますと、これから成長する産業は数学が不可欠ですよということで、必要な意味でのスキルについてピックアップしていただいたものです。AI並びにデータ解析、これはもう確実に必要であるということで、内容に書いてあるとおり、ビジネスの世界から芸術に至るまで、全て大量のデータに基づいてAIに判断させることが前提論になっていきます。あくまで前提です。そこから先が人間がやることだということになりますね。それから、共通言語としてはプログラム言語というのが基本的には非常に重要になっていきますが、昨今プログラムについてはノーコードという方式が出てきていますので、プログラムを書けなくても言葉で一旦入れ込むことで、プログラムが自動的にできるノーコードというものが相当今、ビジネス界でも動いています。ただし、全員がノーコードだけでは、これは進歩しませんので、一定の形で、当然下位さんがやられているようなプログラムをしっかりと、どう作っていくかという専門性がある人たちも、これは育成されないといけないというところも事実です。

それから、これは政府も言っているところですが、考え方としてこれも重要だよということで書いてありますが、金融工学それから投資に関しても、これからの生きていく子どもたちにとっては重要なものだ。その中でどうしても必要なのは、アルゴリズム、トレーディング等では数学が必要になってきますよという考え方です。最後にリスクマネジメントに基づく意思決定理論、これが実は一番多分重要だと言われていました。これから先は、確実にリスクマネジメント、さらに意思決定をどういうふうに人間がしていくかというところが重要になっていくのは、これはもう当たり前だと思います。コンピューター、AI社会の中では、ここに力点が置かれるよという話でした。

下のページですが、実は校長先生方に一番お話をしたのは、ここのレジリエンスの話です。レジリエンス力、もともと心理学用語ですけども、ここでは根本さんは嫌なことがあったときに乗り越えていく力というふうに読み替えています。心理学用語で言うと、どちらかというと回復力と考えるところだと言われてきたところです。根本さんの的にはそのレジリエンス力も、下に書いてある3つ、これが教育の中で重要になっていくとおっしゃっています。

1つは正しいしつけ、叱られて反省する力を子どもたちが持てるのか、受容できるのかということ。ここが、ここ10年どころか30年ばかり日本の教育ではここを避けてきた形が社会の中に存在しますので、これでは駄目なんだという話。しっかり叱られたことを自分の中で受容して、さらにそこで反省して立ち直っていくという力が多分必要になっていくよということ。

それから、そこに対しては、親子の会話、しっかりとした親子間の会話が多分欠落しているんじゃないですかというお話です。ですから、コミュニケーション能力をまずは培っていく中では、家庭の中でのコミュニケーションの育成、これが確実に必要だということです。

さらに、挫折の体験、転ばぬ先の杖は駄目ですよ。挫折をしっかりとさせて乗り越えていく力を養っていきましょうということです。まさしく転ばぬ先の杖ですから、子どもたちが自分たちで何かした結果として、例えば転んだときに、転べば痛いわけですから、泣くわけです。もっと言うなら、人を叩けば痛いわけです。相手も泣くわけです。何で泣いているかの共感力を持ってないという形になっていくことが一番怖いことだということ、この3つの物の考え方を教育のレベルでしっかりと、もう一度考えていくことが、きっとレジリエンス力につながっていきますよというお話でした。

最後のまとめになりますが、いろいろな形のもものが書かれていますけれども、経済的な部分を中心に考えられている方ですので、経済面の未来予測も書かれています。とにかく日本は残念ながらこれから他の国よりも極端な人口減少で、全てのダウンサイジングしなければならなくなっていきます。そういう中で、世界に通用する人材、オンリーワンの人材の、彼が言う、これは彼が作った言葉かどうかわかりませんが、「華僑」ではなくて「和僑」と彼は言いますが、こういう考え方を持つべきだろうと。そして世界共通言語をあやつってレジリエンス力、先ほど申したとおりのものですが、そこをもって質問力を持つ子どもに育ててまいりましょうというペーパーでした。ここについて校長先生たちにお話をさせていただいたところです。ここまでが校長会議の報告となります。

続いて、同じ時間の中で、楽校改革戦略会議についてに移りました。まずは、教育委員会としてこれまで校長とも議論してまいりましたスクールミッションについて、これは一旦もうフィックスさせていただきますというところを再度確認させていただきました。今後これを葉山の教育の幹として、軸をぶらさないように、そしてこの後、各学校でスクールポリシーの策定をしっかりとしてくださいとお願いしました。その後、各校の現在の進捗状況について、各学校から個別状況を頂いたということで、楽校戦略会議について進めたところです。

先般、各委員の方々もおいでいただきましたワークも開かせていただいたので、いよいよ楽校改革の戦略は少しずつ戦略だけではなくて戦術に移ってきて、これから実践に移っていくことになっていくと考えていただければと思います。

最後に12日、今申し上げました未来の楽校を考えるワークショップを開催させていただきました。これについては委員の皆様にもご参加を頂きましたので、もしよろしければご感想も頂ければ非常にありがたいと思います。

私からは冒頭、皆さんいらっしゃいましたが、これからの葉山の教育は学校をつくろう、つまり楽しい学び舎をつくろうという言葉を含い言葉にして、子どもたちだけではなく、大人もわくわくしていくことで教育を今日から変えていこうという話をさせていただいたところです。ワークについては、葉山・南郷中の生徒会の皆さんと学校運営協議会の大人の皆さん、さらには関東学院の法学部の出石教授のゼミの大学生の皆さんとワークを行わせていただきました。キックオフとしては、子どもたちの現在の思いを受け取ることもできたと考えております。最後の辺りで、委員の方々にもコメントを頂きましたし、葉山町の議長の伊東議員のほうからも、非常にありがたい、自分もわくわくしてきたというお言葉も頂きましたし、今日いる人たちが何年かたったときに、学校が変わり始めたのはあのときだったんだよというところになるのが今日かもしれないねというお言葉も頂きました。非常にありがたいお言葉だと思っております。今後継続的にワークを行っていくことで、教育の質や学校の建物の理想等も含めて話を深めていければと考えているところです。

私からの報告は以上になります。ご質疑等、校長会を含めてですが、おありになりましたらお願いできればと思います。いかがでございましょうか。小峰委員、お願いします。

小峰委員) 今の教育長からの楽校改革戦略会議についてお話を頂き、十分に分かったんですけども、その中に小学校の教科担任制等による教育課程の弾力的な運用についてというのが協議事項としてあるんですが、どのようなお話がなされたのか伺ってもよろしいでしょうか。

教育長) 内容論についてはいかがでしょうか。学校教育課長、お願いします。

学校教育課長) 協議時間が大変少なかったもので、それぞれの学校からの報告でした。

特に長柄小学校が精力的に取り組んでいただいて、全学年可能な範囲でやっただけという話の中で、これは校長の苦労の話もございましたけれども、そういった形で進めてはいるものの、導入当時は先生方の理解等も含めて、懐疑的な考え方もあったというようなところを率直にお話しされていました。

ただ、取組を進めていく中でメリットや、これから先生方がまたさらに工夫を

深めて、子どもたちへの指導をもっと進められればという趣旨のお話がありました。それを受けて、それぞれの学校も可能な範囲でやっていたいている学校や制度的に高学年専科を県の加配で入れている学校もありますので、さらに進めていきたいというお話になったかと思います。

小峰委員) ありがとうございます。分かりました。

教 育 長) ありがとうございます。長柄の校長から冒頭であったのは、専科を教科担任制を全学年で入れていくことで、先生たちの持ち時間が減ったわけではないというのは間違えてほしくないという話はされていました。ただし、これも何回もお話ししているとおりで、1人で何クラスかを同じ授業をしていく結果として、教員が授業のクオリティーが上がっているのは事実だというお話をされていたところは、これはいろんな先生方、校長先生方にも伝わったのではないかなと思っております。ちょっと追加させていただきました。

ほかにいかがでしょうか。もしよろしければ、各委員の方々から、この前の日曜日の件も少し、これは議題の中に入っていますので、感想等を頂けるとありがたいのですが、いかがでしょうか。小峰委員、いかがですか。日曜日のワークの件ですが。ワークショップの件ですが。

小峰委員) 大変いい企画が実現できて、これからも続いていくということを大変楽しみに思いました。私が印象に残ったのは、一番最初にプレゼン、中学生がやった中で、どちらも学校行事を充実させたい、イベントもやりたいということだったんですけれども、これも私が感想の中で申し上げたんですけれども、今、コロナ禍を過ぎた中で、いろいろ学校行事というのは整理したり、時間短縮とか効率とかということを考える、これは結局、大人の論理だったのかなということも感じました。新聞記事にも載っていましたが、運動会が全部午前中で終わるところがほとんどになってきまして、種目等も、競技種目等も簡素化されている。これで、じゃあ一体学校行事で何を大切に、何を子どもに育てたいものなのかというきちっとした整理がないまま行っているところもあるのかなということも感じています。子どもたちの希望だけではなく、学校側として、というか、大人としての責任もあると思うんですけれども、子どもたちがそういう要望ができていの中で、どうやってそれをすり合わせていくかということは、これからの学校にとって大事なのかなとも思いました。

私も長柄小学校の運動会、長い階段をひいひいいいながら上って見に行ったときに、保護者の方たちの間に入り込んでいたので、保護種の方の会話が聞こえてきたときに、お弁当がなくて助かるんだけど、年に1回ぐらいはみんなでお弁当を食べる運動会も、あってもいいよね、という話もありました。確かに学校行事っ

て子どもたちだけの楽しみではなくて、地域とか保護者の方も、それに参加することに意義というか、喜びを見ているところもあるので、それを含めて、今さらながらに学校行事をどう精選していくのか。何を大事にしていくのかということは考えたいなということでは思いました。それは子どもたちのプレゼンの中から感じたことですが、全体的によくみんなグループでディスカッションができていて、よくまとめられて、これからの学校に期待したいもの、自分たちがどう学校をつくっていききたいのかということも、第1回目としてはとても充実した会議の中身だったなということを感じました。

教 育 長) ありがとうございます。鈴木委員、いかがですか。

鈴 木 委 員) 私も参加して、非常によかったなということを行ったけれども、子どもたちがあそこまでいろいろ発言をするような状況があるんだということ、僕の中学校時代とは雲泥の差でした。ワークショップで、先生たちは大変でかわいそうみたいなことも言っていて、よく分かっているなと思いました。それから、英語については、もっとしゃべる機会が欲しいと。ああ、もっともだなと。英語をやったりしゃべってないと、私は英語、全然できないですけど、でも仕事柄、香港で仕事をするときにはブローケン英語でしゃべって、そこそこ通じた部分があったんですけど、今しゃべれと言われても、とっさに出てこないという。もう5年以上、英会話に触れてないということもあるんですけども。それは確かだなと思いました。

それから、もっと学校視察の折に、1クラスぐらい、1時間ぐらいディスカッションさせてもらおうとありがたい。視察とは別にね。あそこに来られた方は、PTA、生徒会の経験者だったり、そこそこ学校を代表して物を言えるような方ばかりなので、普通のといたらおかしいけど、そういう子の意見も聞きたいなとちょっと思いました。

以上、ぜひこれからも、大変だと思うんだけどね、やっぱりああいうことっていうのはすごく大事なんだなというのを実感して、子どもたちがあそこまで考えているということはすごくいいことなので、もっと一般の生徒さんとも話す機会があるといいなと、そういうふうに思いました。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。清水委員、いかがですか。

清 水 委 員) 今回、南郷中、葉山中の生徒のリアルな声が聞けて、いい機会を頂いたなと思いました。ご準備も大変だったと思います。特に、両中学の生徒会によるプレゼン力は、日頃培われたものが発揮されていました。データを整理し、分かりやすく発言するというのは、日頃の学校での学びが生かされていると感じます。

私もワークショップにも参加させていただきました。南郷中の生徒さんからは、

英語を話す機会を増やして欲しい、空きスペースを活用したいなどの案が出されました。南郷中視察のときも感じましたが、南郷中に通うことを誇りに思って、日々生活していらっしゃるといふのを感じ取ることができました。

葉山中の生徒さんからは、もちろん葉中を誇りに思っているけれど、やはり今過去の負の学校イメージを現在の現役中学生が背負っている面があると率直に教えてくれました。入学したらイメージのように怖くもないし、先生もとてもいい方が多くて、生徒も仲が良い。なので、現在の葉山中のよさを情報発信したいと、こういう機会でも情報発信できたことはすごくよかったと言っていたのが印象的でした。鈴木委員がおっしゃってくださったように、このように視察のときでは分からない、生の声をもっと聞きたいと思いました。未来の学校を考えるワークショップは配信されるとお伺いしております。どれくらいの人が見てくださるか分からないですけれども、伝えていくツールを考えていくというのは大事だなと思いました。本当にリアルな声で、学校設備の件ですとか、給食の件なども話を聞けたので、学校運営に今後生かしていただきたいと考えております。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。下位さん、いかがですか。

下 位 委 員) 私はちょっと別の会議がありまして、11時ぐらいから参加させていただいたんですけれども、ちょうど皆さんが討論しているタイミングで、発表する直前でした。まず一番びっくりしたのは、こんなに人が集まっているというのが入って思ったところですが、ちょうど皆さんが意見を発表するときに間に合いました。

全体的に、やはり時代なのかなと思うんですけれども、サステナブルという単語がいろいろ出てきたりですとか、それこそ校庭の畑で作った作物を売ってみたいとか、そんなようなお話があったのが印象的でした。

コロナ世代という言い方がいいかどうか分からないんですけれども、ちょうどそういった時期の子どもたちだと思いますので、文化祭をしたかったとか、情報発信できる場所が欲しいとかいう話が印象に残っています。

出石先生もおっしゃっていましたが、楽しい学校をまずつくり上げなければいけないですし、それは当事者である子どもたちと先生がよく話し合っくっていかないとはいけません。今回は校長先生たちがいらっしゃいましたけれども、一般の教員の方はそんなに多くなかったと思いますので、そういう方も含めて、今後話合いができればいいだろうなと思います。

益田校長が、卒業しても行きたくなる学校にしたいとおっしゃったのはすごく印象的で、目指していくべきだなと思います。地域に根差した学校で、葉山はご存じのとおり、卒業しても葉山から出て行く子どもが多分少ない地域だと、戻ってくる子が多い地域だと思いますので、そういった学校になっていくといいんじ

やないかなと思います。

最後に、後藤さんのお話で、今回のメンバーは、基本的には同一性が高すぎると。きれいな意見しか当然出ないでしょうと。おっしゃるとおりだと思います。まずそこから始めないと、ばらばらになっちゃうといけないと思うんですけども、それを理解した上で、学校だけではなく、町の地域の方とかも入ってきて、違う意見が出てくるでしょうと。それを認めることも心がけながら進めていきたいと思いますとおっしゃっていたのは、本当にそのとおりだなと思いましたので、皆さんがおっしゃっていましたが、これ企画して実施するのは、そこそこ大変だとは思いますが、できれば定期的にやっていただいで、まずは今度学校の一般の先生が入れる。その後は今度は地域の方が入れるという形になっていくといいんじゃないかなと思いました。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。実施までの間は、教育総務課の虫賀課長を中心に、生徒との事前の打合せですとか様々やっていただいたので、結果、本当によく、いい形で皆さんがやっていただけたのは本当にありがたいと思っていますが。虫賀課長、何かありますか。

教育総務課長) 南郷中・葉中とも、事前学習3回機会を頂いて、1回40分ぐらいですね。そういうところで私たちも探究学習などの進め方について、肌感覚で気づくところもありました。プレゼンなどお褒めいただいている部分もありますが、プレゼン力であるとか、機械を使いこなす力みたいなのは小学生段階でもう少し力がついていると、より探究的な思考を回すほうに中学生は集中できるんじゃないとか、9年間の系統性を改めて気づかされる機会にもなったので、そういうところは今後の取組に学校教育課とも相談しながら生かしていきたいと思っています。

全体としては、葉山町、令和7年度を初年度として新しい教育プランが始まります。町としては令和7年1月に町制100周年を迎えて、その段階では施設の方針を公表するとしていますので、教育の中身も施設面でも、あと1年半、教育委員会の中で目いっぱい働かせてもらって、新しい方向をきちんと示したいなと思います。ですので、ここ1年ぐらい、今後どういう取組をするかについては、できるだけ早い時期にその戦術レベルのものを教育委員さんにお知らせできればいいなと思っています。よろしくお願いします。

教 育 長) ありがとうございます。濱名課長、何かありますか。

学校教育課長) 今、虫賀課長からあったとおり、事前の準備でしっかり子どもたちに落ちていたなと思いました。当日の発表でいかに根拠を持って話をするかというところが一番大事なところだと思うのですが、それを子どもたちがしっかりと踏まえて一生懸命説明していました。それがまずは一番印象に残ったところです。

日々の学習の取組を常に根拠に戻って振り返り、それから意見がすり合わなかったときに、じゃあどう考えていくかが重要になります。一つの発表の場としても、非常にいいキックオフができたと思っています。

先ほど下位委員のお話にもあったとおり、講評の中で違う価値観や違う考え方が出てきたときに、それをどのように考えながら納得解を出していくかというところに次のステージに入っていく課題だと思います。そういった場の設定であったり、話の進め方コーディネートが非常に難しいと思うので、回を重ねていく中で、そういったところにも踏み込んでいけるといいなと思いました。以上です。

教 育 長) 当日は、一般の教員は生徒会を中心とした担当の教員が南郷中も葉中も両方とも来ておりましたので、彼らがこういうことをやるということを、ほかの教員にきちっと話してくれないと広がっていかないということになりますので、ここはまた校長さんとも話をしながら、いかに子どもたち頑張ったんだよということですとか、課題が一体何だったのかというのが、その場だけにならないようにということで、また話を進めてまいればと思っています。

今回は中学生でしたが、恐らく小学校の高学年ぐらいの子たちもこういうところに参加していくことで、いろんな自分たちの意見を言える場というのがあるんだと思えるのは重要なことだと思っていますので、また企画については教育委員会の中でも練りながら、またご相談も差し上げられればと思っていますので、今後ご意見頂ければと思います。ありがとうございます。

ほかに何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、ご質疑がなければ、これにて質疑を終結します。

以上、教育長の報告事項については、これをもって終了といたします。

(教育委員活動報告)

教 育 長) 日程第3「教育委員活動報告について」を議題といたします。

私のほうからは先ほど申しあげましたので、10月26日に行われました南郷中学校視察について、各委員よりご報告をお願いできればと思います。鈴木委員からですかね。

鈴 木 委 員) 私自身すごく気になることがなかったというのがまず第一だったと思います。生徒たちも非常に落ち着いていて、授業がやりやすいと思いました。

1つだけ気になったのは、通学路の問題だね。南中はどうしても、あそこの危険なところを行きたいというところがあって、気持ちも分かるしね、かといって何かあったらうまくないなというところがあって、前回も申しあげたかもしれないんだけど、それが何となく気になったというところかなと。やりようが

ないんだろうけど、常に考えて、危険を除去する方法論をどういうふうにしたらいいかを考える必要性は、教育委員会としてはあるのかなと思いました。

あと、全体的には落ち着いておられるので、私からはほとんどなくて、先生たちの部分については、小峰委員からお話があると思いますので。

教 育 長) 通学路については、校長もシンデレラ階段の関係含めてどうするかということは考えられているところもありますし、一方ここのシンデレラ階段、大分長い時間いろんな形で議論にもなっていますので、また教育委員会としてもどうするかについてもまた考えさせていただければと思っております。

小峰委員でよろしいですか。

小 峰 委 員) 南郷中学で最後の視察が終わったということですがけれども、まず、益田校長先生だったので、最初に校長先生からの学校の現状について丁寧なお話があったのが大変ありがたかったです。よく分かりました。

南郷中学校に限らず、全部6校行かせていただいて、どこでも子どもたちと先生たちの関係はとてもよくできているなということを感じました。ですから、みんな落ち着いた授業が見られたという点では、いい学校づくりができているんだろうなということを感じます。ただ、私としては、子どもと先生たちがつくり上げていくような授業が見たいなと思います。単元とか教材とか、その学習が始まる時、それを貫くような課題意識が先生たちと子どもたちで話し合いをして、どこに疑問があるかなどというようなところから入って行って、子ども自身が自分たちが突き詰めていきたい、追究していきたい課題はこれなんだというようなことができる授業、もう少し頑張ってもらいたいなということを感じました。それはちょっと欲張りで、なかなか難しいことだとは思いますがけれども、今、落ち着いた授業ができているのであれば、そこまで先生方が子ども、引っ張ってきた子どもたちとつくり上げていくことも、これからは可能ではないかなということを感じております。

教 育 長) ありがとうございます。続いては下位委員お願いします。

下 位 委 員) 益田先生の熱い思いは変わっていませんでした。生徒にだけではなく、学校にも熱い方なので、今、小峰委員がおっしゃいましたが、最初にまずは南郷中について詳しくご説明いただいたことに感謝したいと思います。

ほかの5校と同じように、落ち着いて学習ができる環境であることを確認させていただきました。先生方と子どもたちとの信頼関係があつてこそかと思います。

それで印象的だったのが、どのクラスの子どもたちも、無理やり、嫌々授業を受けているという雰囲気全然なくて、それぞれの温度感の違いはありますけれども、積極的に授業に参加しているように感じました。

最初に拝見した理科の授業ですが、先生が生き生きと授業をされていて、それが生徒に伝わっている様子が非常によく分かりました。あと、例年気になっていた理科室の整理も進んでいるように見受けられましたので、少し実験道具が片づいているような印象です。

その後に拝見した英語の授業も同じく生き生きと授業を先生がされていて、生徒たちも楽しそうに学んでいました。本当に先生方の熱量が生徒に伝わるよい例だと思えるんですけど、南郷中学校と重なるかもしれないのかなと思います。

長柄・南郷にしか存在しないリソースルーム、ほかの学校ではなかったですね。その価値も再認識してまいりました。この部屋があるからこそ、登校できる生徒がいたりとか、落ち着いた環境として一時的に利用している生徒がいたりとかしています。この事例を生かしながら、ほかの学校でもぜひ開設を検討していただければなと思いました。

南郷中に限ったことではないんですけども、やはりWi-Fiのついてない特別教室がございますので、例えば理科室は1部屋ついているけれども、もう1部屋はついてないとかありますので、なかなか予算的にも全教室に配置というのは難しいとは思いますが、なるべく今後少しずつでも配置が進めていけたらいいんじゃないかなと思います。

特に、さきに触れたリソースルームは、Wi-Fi構築当初には存在しなかったもので、当然ついてないわけなんですけれども、今となってはリソースルームは明らかにWi-Fiは必要だと思いますので、もうちょっと優先的にいきたいなと思います。

とにかく、全体的に南郷中学校、昔からなんでしょうけれども、優等生が多いような印象が私にはあるんですが、先ほど話もありましたけれども、葉山中学校は悪い、南郷中は優等生というイメージがもしまだ残っているようであれば、そんなことはないと思いますので、どうか払拭していただければいいんじゃないかなと思いました。以上でございます。

教 育 長) ありがとうございます。では、清水委員、お願いします。

清 水 委 員) 皆様ご指摘頂いたことに同感です。私を感じたのは、ほとんどのお子さんが長柄小から南郷中に通学しています。もちろん他の小学校の児童もいらっしゃいます。小中一貫ではないですけども、子どもたちも安定した授業ができていて一因だと思います。1点、益田校長がおっしゃっていたことも印象的でした。長柄小から南郷中への通学は慣れ親しんだ環境、仲間である。卒業して外へ出たときにどうなのかということを今後は考えていかなければいけないと。卒業後は、教育長がおっしゃったレジリエンス力も非常に重要になってくると思います。現在、

安定して仲よくできているからこそ外に出たときのことを、どういうふうに体験・経験していただかというのも大事だなと思いました。欲張りなのかもしれませんが。

そのような観点からも、技術系の授業がもっと挑戦できるのではないかなど、技術、美術、体育については南郷中だけでなく、葉山中の生徒も、現在の課題よりももっと高度な課題に取り組めると感じました。それだけ高い能力を持っていると考えます。身体や手を動かすことで培われるものもありますので、その点をぜひ強化いただけたら、より一層葉山のすばらしい子が育っていくのではないかなど、希望を感じた視察でした。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。鈴木委員がおっしゃっていましたが、確かに、ただ授業を見るだけでなく、終わった後で、何人かの生徒さんたちと少し委員の方々がお話ができる機会というのが、全ての6校は難しいと思いますけれども、中学生はどちらかの学校で必ず話が聞けるとかという状況は、あったほうがよさそうな気がしております。話は違ふのかもしれませんが、私が県にいたときに、文教常任委員会の議員の人たちが学校視察をするときがありますが、必ず生徒との対話をほぼほぼやっていたし、その結果として常任委員会の移動として、そこで校長たちと話をするという場が最後にあるということがありましたので、やはりつくられたものだけではなくて、子どもたちの生の声も少し聞けるような状況というのが今後つくれると一番いいだろうなと思いつつ、今のを伺っていたところです。ありがとうございます。

様々な部分で、よりいい形を視察についてもつくっていただければと思っています。ここについては議員の方々も実は学校の授業を見たいということをおっしゃっておられますので、こういうこと全部を委員の方々のように全校を回るとするのは、とてもじゃないですけど無理ですけども、ご要望があればどこかの学校を順番に見ていただくことも、これも必要だろうなと思っています。議員の方々が学校の中身は分からないわけですね。外身からしか分からないという話になってしまいますので、内容をよく知っていただく、これまで本当に教員頑張っているんだということを見ていただくのも必要だと思いますので、こういうことも含めて今後進めてまいればと思います。

教育委員会の活動報告については以上でよろしいでしょうか。

では、これをもって終了とさせていただきます。

(議案第15号)

教 育 長) 日程第4、議案第15号「学校施設あり方検討委員会委員の委嘱について」を議

題とします。

議案について、教育総務課長、説明をお願いいたします。

教育総務課長) 議案第15号学校施設あり方検討委員会委員の委嘱について。

次の者に学校施設あり方検討委員会委員を委嘱する。

(別紙)

令和5年11月15日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

学校施設のあり方について審議させるに当たり、学校施設あり方検討委員会委員を令和6年1月15日付けで委嘱する必要があるため、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第12号の規定により提案するものです。

委員については別紙のとおりです。任期は令和6年1月15日から令和7年3月31日となっております。以上です。

教育長) ありがとうございます。これより質疑を行います。何かご質問等ございますか。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) 1つ聞きたいんですけど、今ある施設の在り方検討会なの。小中一貫の件も含めて触れてくるの。

教育総務課長) 基本的には未来の学校のほうで、再整備について検討していただきたいと思っています。

鈴木委員) ということは、小中一貫も考えなきゃいけないことになれば、それは考える。そういうことね。

教育総務課長) 教育委員会として、その方針を委員さんに説明したいと思います。その上で、学区を含めて、妥当性等についてご議論いただきたいと思っています。

鈴木委員) これ、絶対必要だからね。小中一貫校の件に触れずに何かやるというのは、今の葉山の状況からいって意味がない。結論からいったらやらなきゃ。今の学校をどうするかといたら、ここを直さなきゃいけない、あそこを直さなきゃいけない。在り方としてこうあるべきだということになるわけだから、今の状況からいって、虫賀課長言われたように将来の話をするならば、小中一貫に触れてこないとね、絶対に意味がないし、そこの議論があってこそ説得力が湧くんだらうと僕は思っているんで、もちろんそれがメインであってはならないのかもしれないけど、それに触れないことはあってはならないと考えているので、よろしくお願ひします。

教 育 長) しっかりと承りました。ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。
ご質疑がなければ、これにて終結いたします。

議案第 15 号について、承認することにご異議ありませんか。

委員 全員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。以上、「議案第15号学校施設あり方検討委員会委員の
委嘱について」は、原案のとおり承認されました。

(議案第16号、議案第17号)

教 育 長) 議案第16から17号について、2案について一括で議題といたします。

日程第 5、議案第16号「葉山町学校運営協議会委員の解職について」、日程第
6、議案第17号「葉山町学校運営協議会委員の委嘱について」を議題とします。

議案について、教育総務課長、説明をお願いいたします。

教育総務課長) 議案第16号葉山町学校運営協議会委員の解職について。

次の者を葉山町学校運営協議会委員から解職する。

氏名、矢地みどり

住所、葉山町長柄

辞職理由、一身上の都合

解職年月日、令和 5 年11月30日

令和 5 年11月15日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

葉山町学校運営協議会委員 矢地みどりから令和 5 年11月30日をもって辞職の
申出がされたことに伴い解職する必要があるため、葉山町教育委員会教育長に対
する事務委任等に関する規則第 2 条第 1 項第12号の規定により提案するものです。

議案第17号葉山町学校運営協議会委員の委嘱について。

次の者に葉山町学校運営協議会委員を委嘱する。

氏名、秋山 綾

住所、葉山町堀内

委嘱年月日、令和 5 年12月 1 日

令和 5 年11月15日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

葉山町学校運営協議会委員 矢地みどりから令和5年11月30日をもって辞職の申出があり、後任の委員を委嘱する必要があるため、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第12号の規定により提案するものです。

以上です。

教 育 長) これより質疑を行います。質疑等ございますでしょうか。よろしいですか。質疑がなければ、これにて終結いたします。

議案第16号及び17号について、承認することにご異議ありませんか。

委 員 全 員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。以上、「議案第16号葉山町学校運営協議会委員の解職について」、「議案第17号葉山町学校運営協議会委員の委嘱について」は、原案のとおり承認されました。

(議案第18号)

教 育 長) 議案第18号に移らせていただきます。日程第7、議案第18号「令和5年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第7号））（案）」について」を議題とします。

議案について、教育総務課長、説明をお願いいたします。

教育総務課長) 議案第18号令和5年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第7号））（案）について

令和5年度葉山町議会第4回定例会において、令和5年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第7号））（案）に係る議決を経ることについて、異存ない旨を申し出るものです。

(別紙)

令和5年11月15日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、町長より教育委員会の意見を求められましたので、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第4号の規定により提案するものです。

それでは、別紙をご覧ください。今回の補正予算は、歳出が2件で計1,885万4,000円となっております。小学校教育振興事業について、学校教育課から説明いたします。

学校教育課長) 小学校の教科書採択業務が今年度行われました。委員の皆様ありがとうございます

ました。来年度、新たな教科書を使用するということで、今回の補正につきましては、来年度先生方が事前に春休み等を使って教材研究等を行う上で必要な教師用指導書を購入させていただくということで補正をかけさせていただいています。以上になります。

教 育 長) 中学校費のほうはございますか。

教育総務課長) 中学校施設管理事業ですが、南郷中学校のプールの老朽化に伴い、防水工事を施すものです。以上です。

教 育 長) 質疑はございますでしょうか。よろしいですか。

質疑がなければ、これにて終結します。

議案第18号について、承認することにご異議ありませんか。

委員全員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。以上、「議案第18号令和5年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第7号））（案）」につきましては、原案のとおり承認されました。

(各課からの報告)

教 育 長) それでは、日程第8「各課からの報告」に入ります。

生涯学習課の報告ですね。お願いいたします。

生涯学習課長) では、葉山町地域学校協働活動推進員の解職及び委嘱について報告させていただきます。

先ほどの議案第16号及び17号におきまして、葉山町学校運営協議会委員の解職及び委嘱について承認を頂いたところですが、それに関連するものであります。地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもたちの成長を支えていく学校支援活動、放課後の学習指導など様々な活動に当たって、地域と学校のつなぎ役となる地域学校協働活動推進員として、南郷中学校区において矢地みどり氏へ委嘱させていただいておりました。このたび、学校運営協議会委員と同じく、自己の都合により辞職の申出がございましたので、令和5年11月30日付にて委嘱を解くものであります。

また、新たに後任として、令和5年12月1日付にて秋山綾氏へ委嘱させていただく予定であります。

以上、生涯学習課からの報告とさせていただきます。

教 育 長) ありがとうございます。いわゆるコーディネーターを委嘱していた関係があるので、ここは生涯学習課のセクションになりますので、今、併せて話をさせていただいたというところになります。

ほかに何か各課からございますか。よろしいですか。なければ各課からの報告を終了いたします。

(その他)

教 育 長) 日程第9「その他」について、何かございますでしょうか。よろしいですかね。それでは、ないようでしたら、主な行事予定について、教育総務課長から説明させていただきます。お願いいたします。

教育総務課長) 主な行事予定。

令和5年11月17日(金)、県市町村教育委員会連合会研修会。

28日(火)～町議会第4回定例会。

12月4日(月)、楽校改革戦略会議、定例校長会議。

10日(日)、葉山町民駅伝大会。

20日(水)、定例教育委員会。

28日(木)、仕事納め。

令和6年1月4日(木)、仕事始め。

5日(金)、新春の集い。

8日(月)、二十歳のつどい。

12月20日の定例教育委員会の予定はよろしいでしょうか。それでは、20日の10時からということで、よろしくお願いいたします。

また、1月5日の新春の集いにつきましては、今月末頃、町から教育委員の皆様にご案内があるかと思えます。当日は11時開催予定です。よろしくお願いいたします。以上です。

鈴木委員) 場所はどこだっけ。葉山小。

教育総務課長) はい、葉山小です。

教 育 長) それでは、以上をもちまして本日の日程は全て終了しましたので、これにて閉会といたします。時刻は11時35分でございます。ありがとうございました。